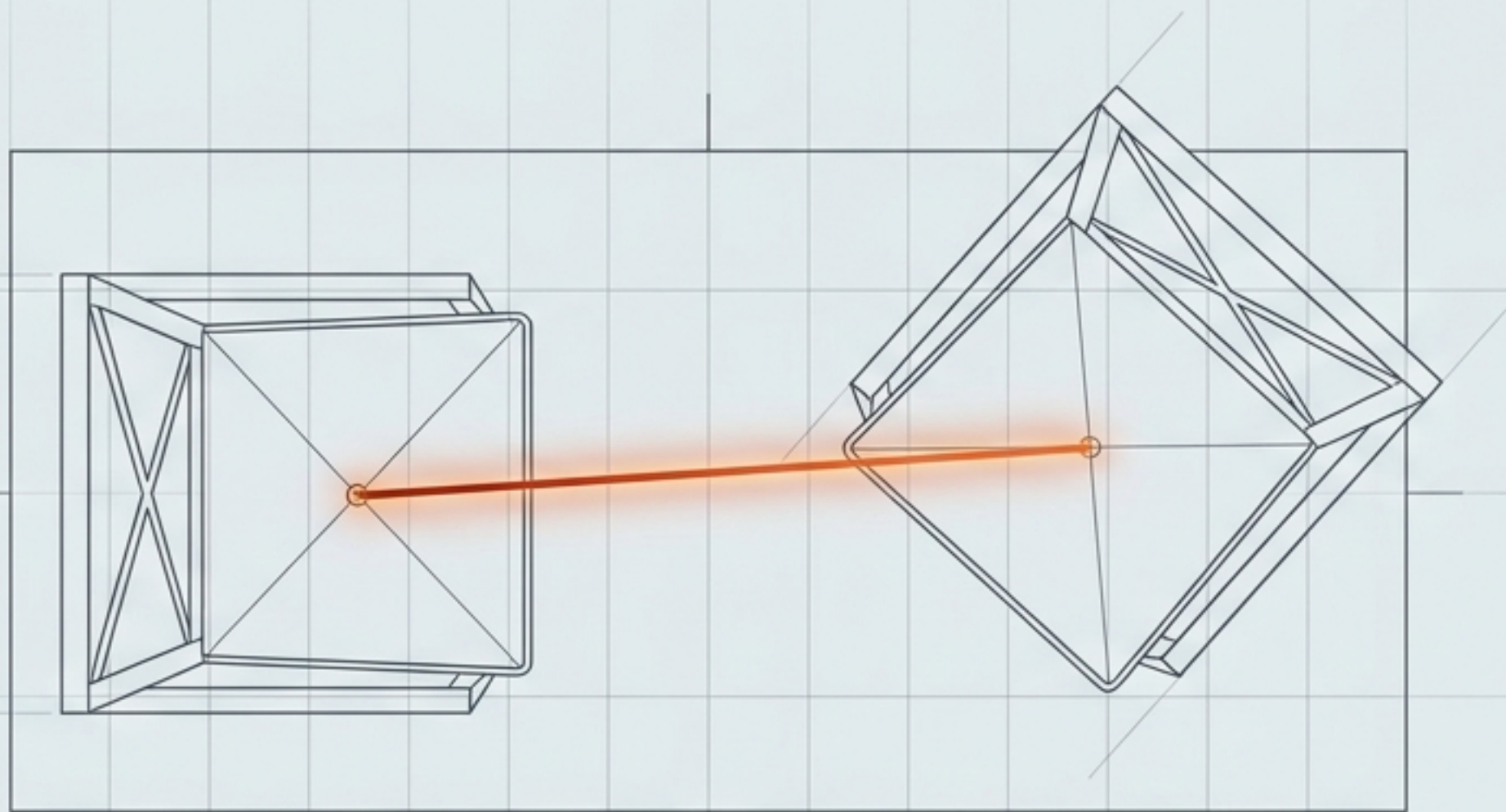
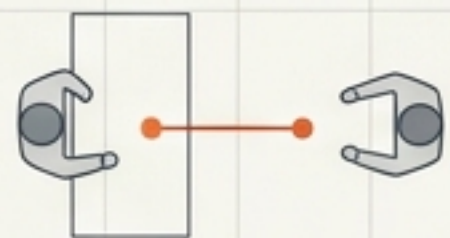
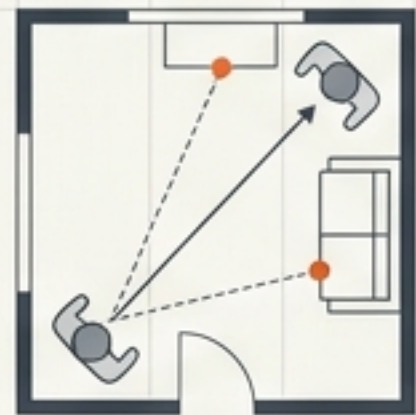
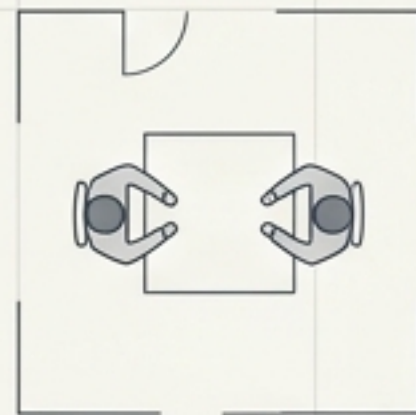


座り方は、会話の前の「返事」である。

言葉より先に始まる「空間設計」と人間力



コミュニケーションは「言葉」の前に始まっている



T-Minus

T-5秒:
接近

T-3秒:
荷物の配置

T-2秒:
座る位置と
角度

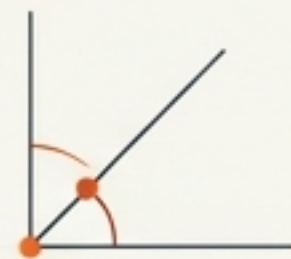
T-1秒:
目線と距離

T-Zero:
第一声

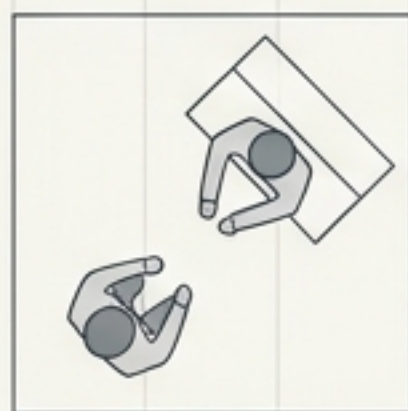


T-5秒:
接近

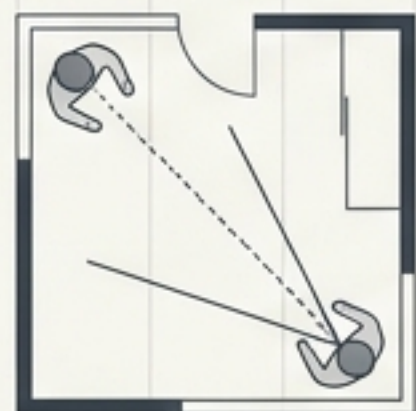
T-3秒:
荷物の配置



T-1秒:
目線と距離



多くの人はコミュニケーションを「話すこと」だと思い込んでいます。しかし、身体の向き、荷物の置き方、相手との距離、これらすべてがすでに強烈なメッセージを発しています。



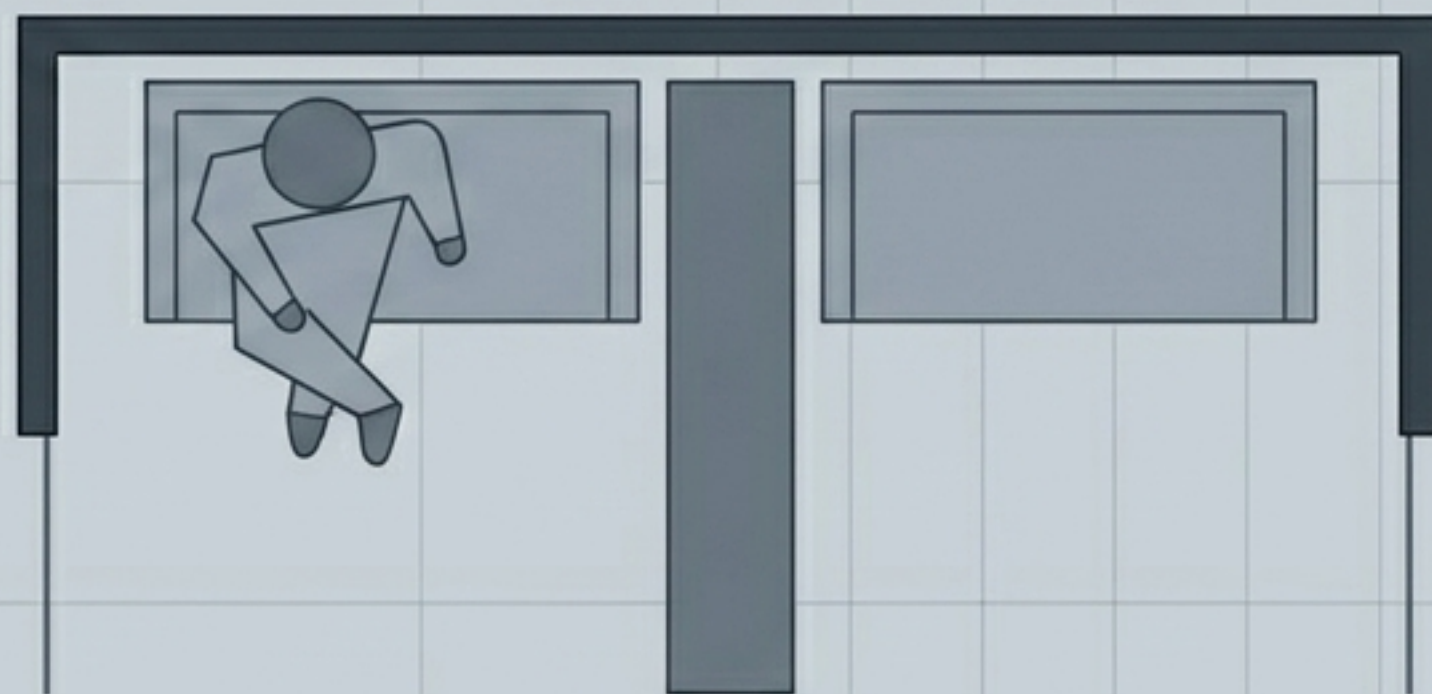
身体配置が語る「2つの本音」

入口の構築



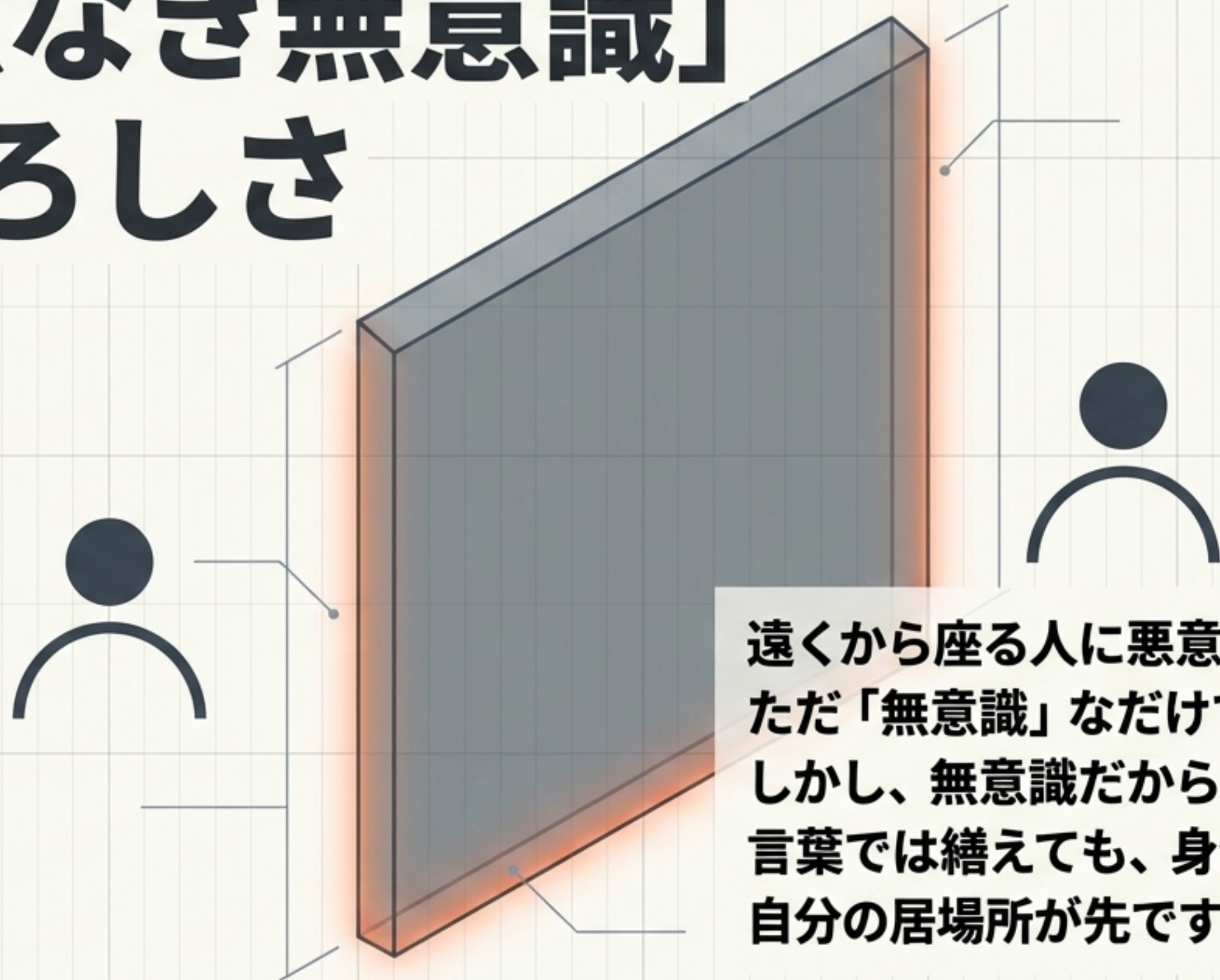
「あなたとの接点を作ります」

安全圏の確保



「私はまず、自分の安全圏を確保します」

「悪意なき無意識」 の恐ろしさ



遠くから座る人に悪意はありません。
ただ「無意識」なだけです。
しかし、無意識だからこそ怖いのです。
言葉では繕えても、身体は「会話より、
自分の居場所が先です」と叫んでいます。

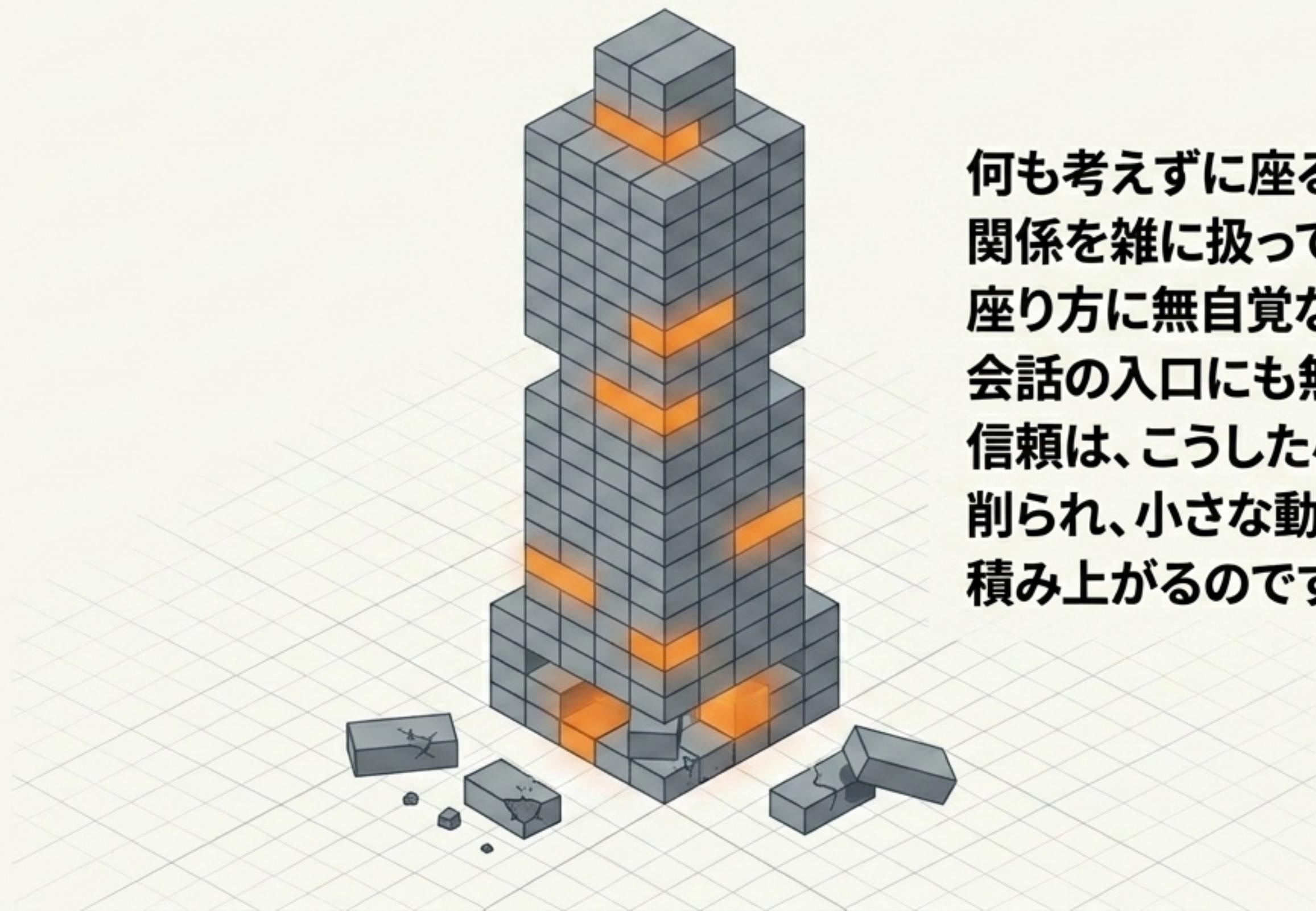
言葉と身体の「ズレ」が、場を鈍らせる



言葉：「話しましょう」	⚡	身体：逃げている
言葉：協力的	⚡	距離：遠い
言葉：「はい」	⚡	姿勢：受け取っていない

口でどれだけ前向きなことを言っても、身体が閉じていれば「本当は関わる準備ができていない」というメッセージが伝わります。

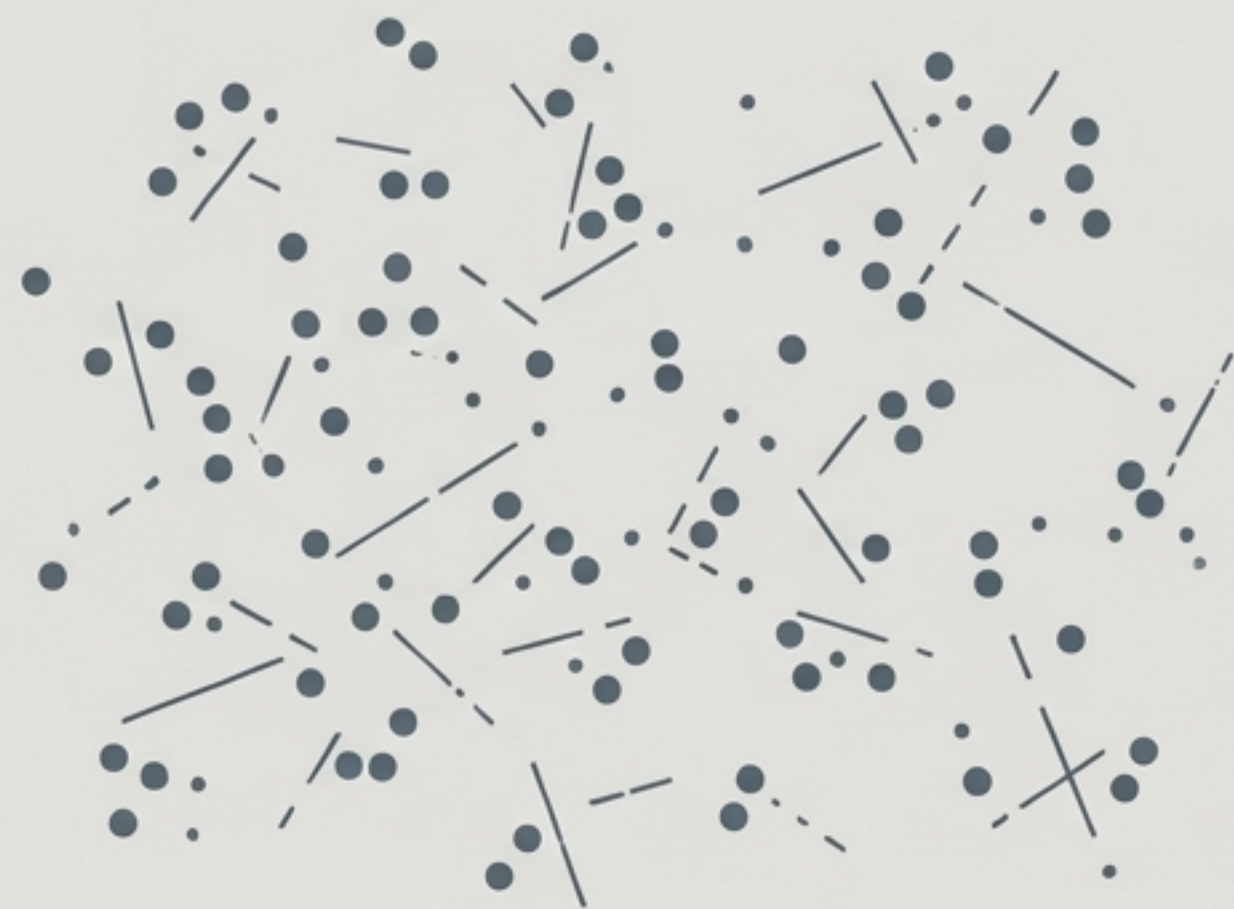
座り方は、相手への「小さな敬意」である



何も考えずに座る人は、
関係を雑に扱っています。
座り方に無自覚な人は、
会話の入口にも無自覚です。
信頼は、こうした小さな動作で
削られ、小さな動作で
積み上がるのです。

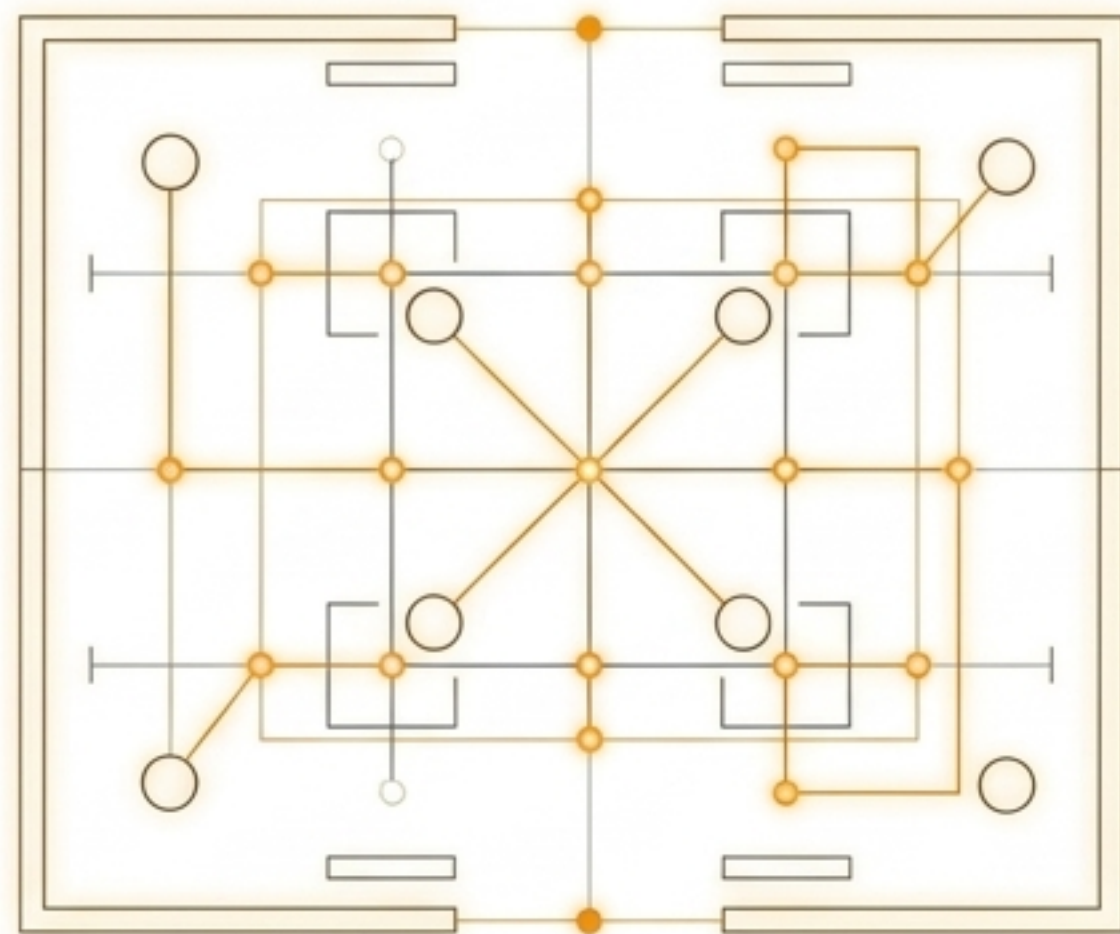
人間関係は才能ではない。「観察と設計」である。

たまたま



「たまたま遠い側から座っただけ」。
毎回たまたまなら、それはもう「傾向」である。

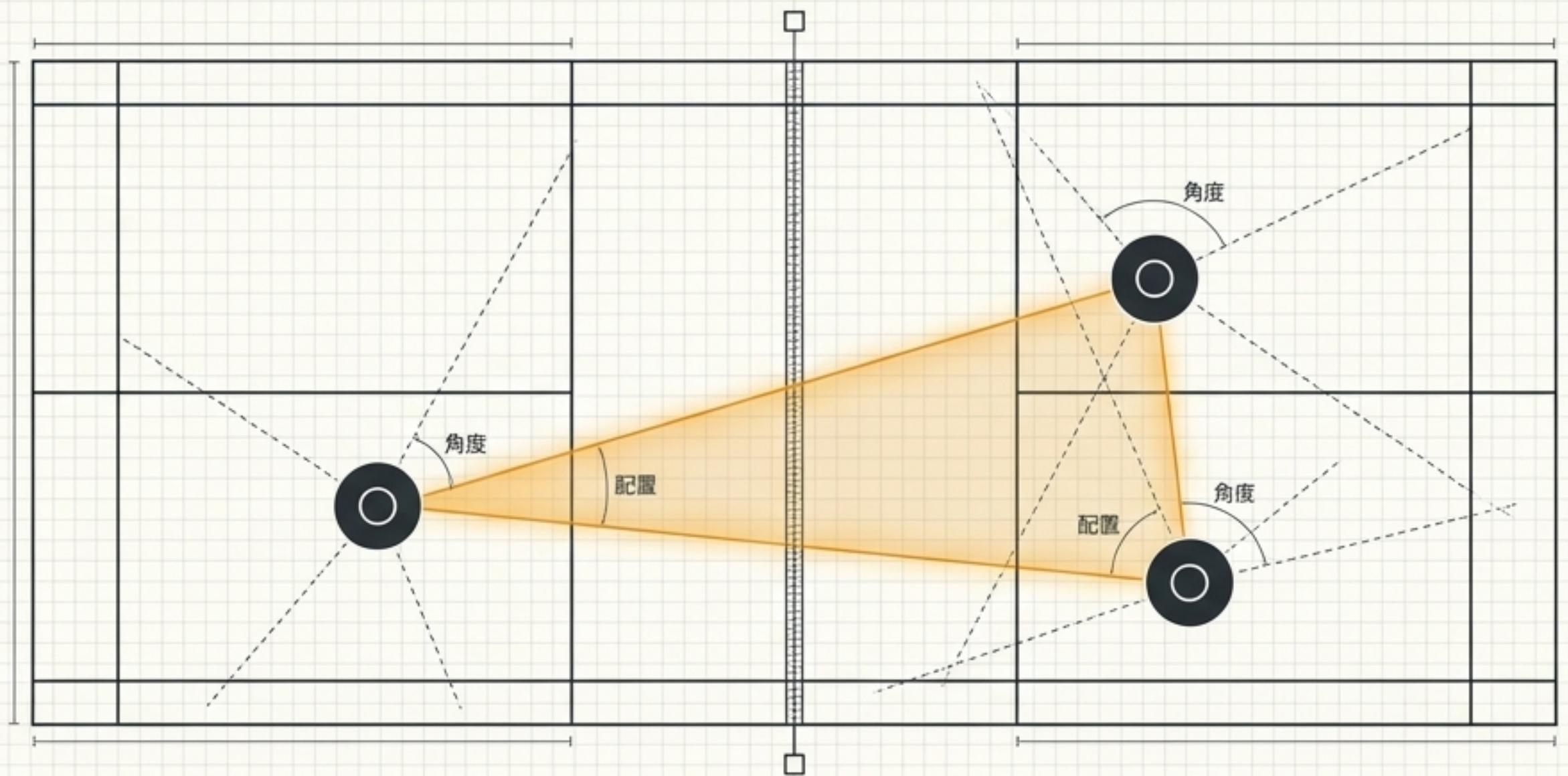
観察と設計



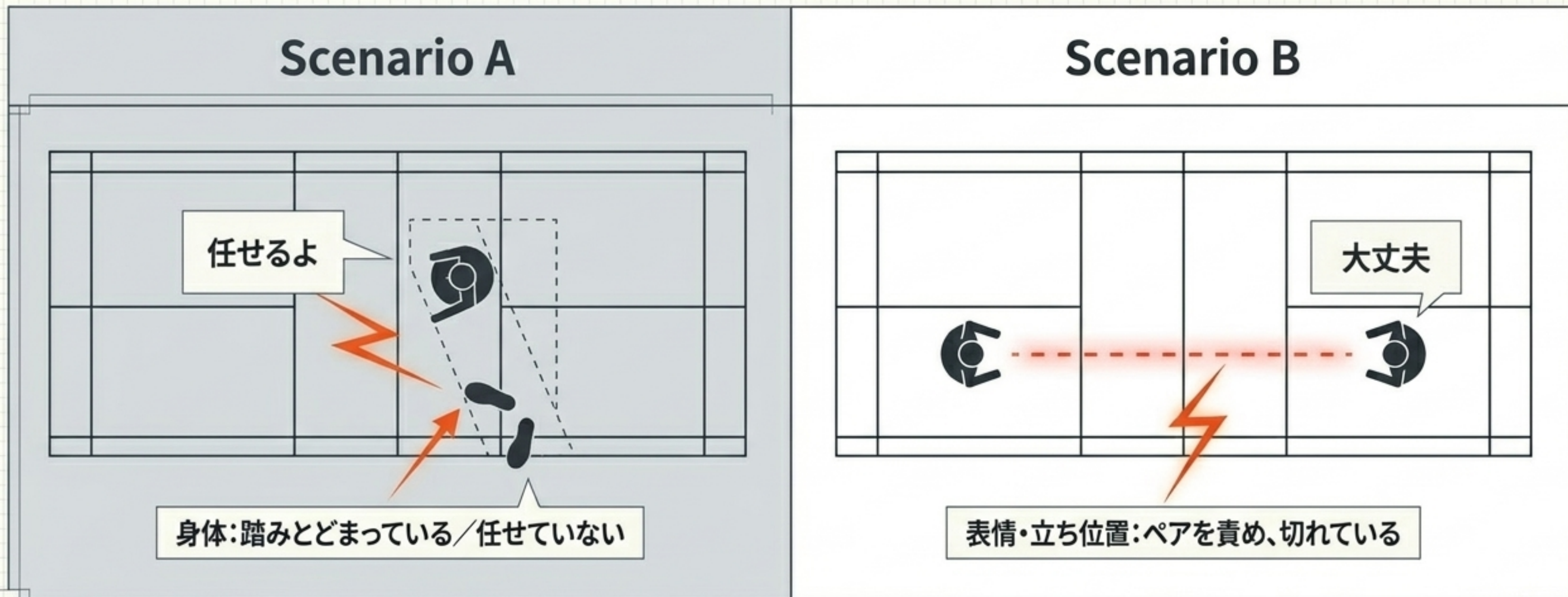
座る前に考える。
「この座り方は相手とつながる配置か？」

バドミントンも、 全く同じである。

ペアとの距離。構える角度。ラリー後の立ち位置。
コミュニケーションが下手な人は、コート上でも
「配置が雑」です。
すべてがメッセージになります。

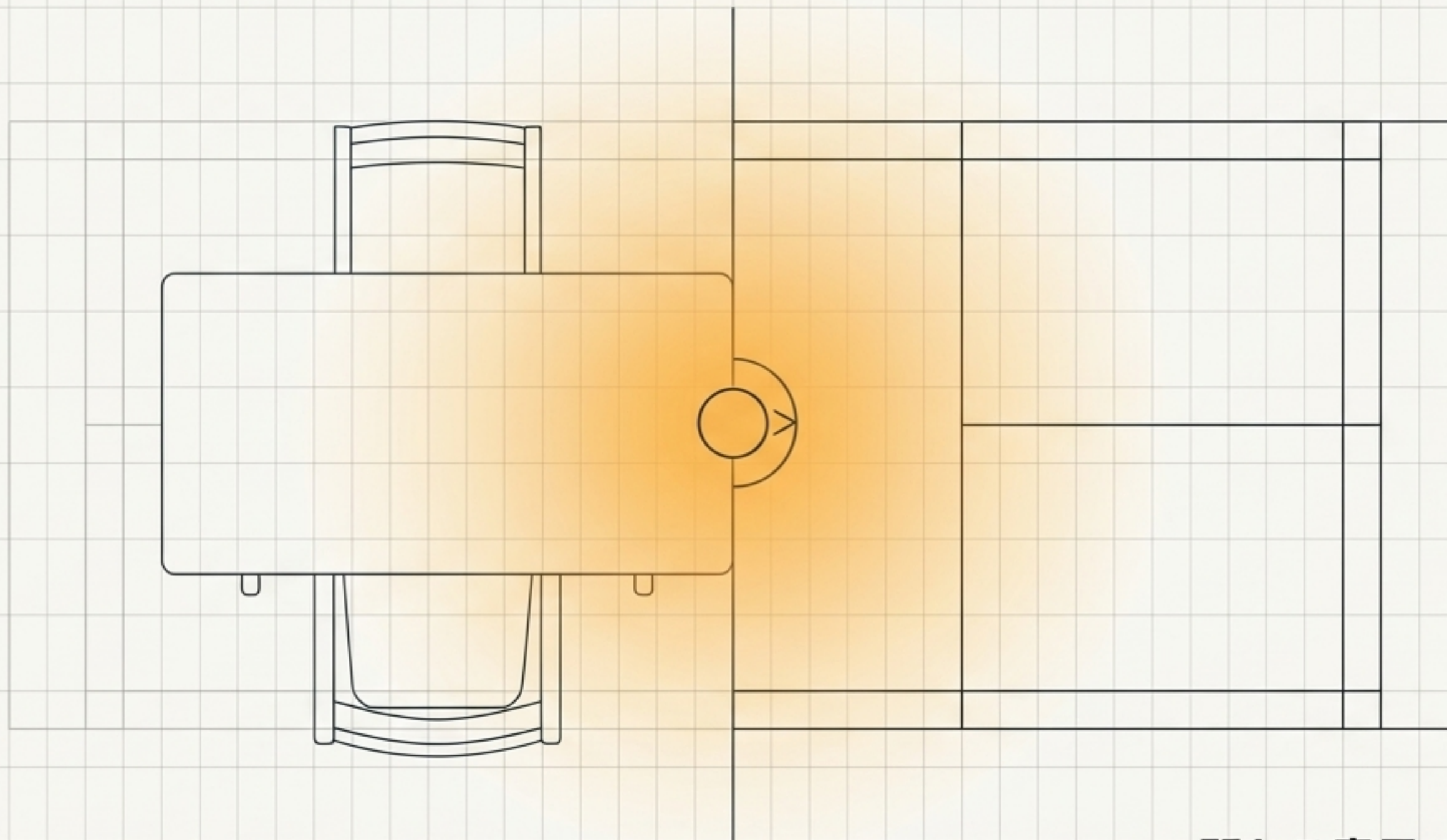


プレッシャーの下で露呈する「身体の本音」



本当に勝ちたい人は、言葉だけでなく、身体配置でも協力を示します。

コートでも、椅子でも。



小さなことに気づける人が、場を温める。

- 近づく意思のある人は、近づく身体をしている。

- 関わる意思のある人は、関われる配置を作っている。

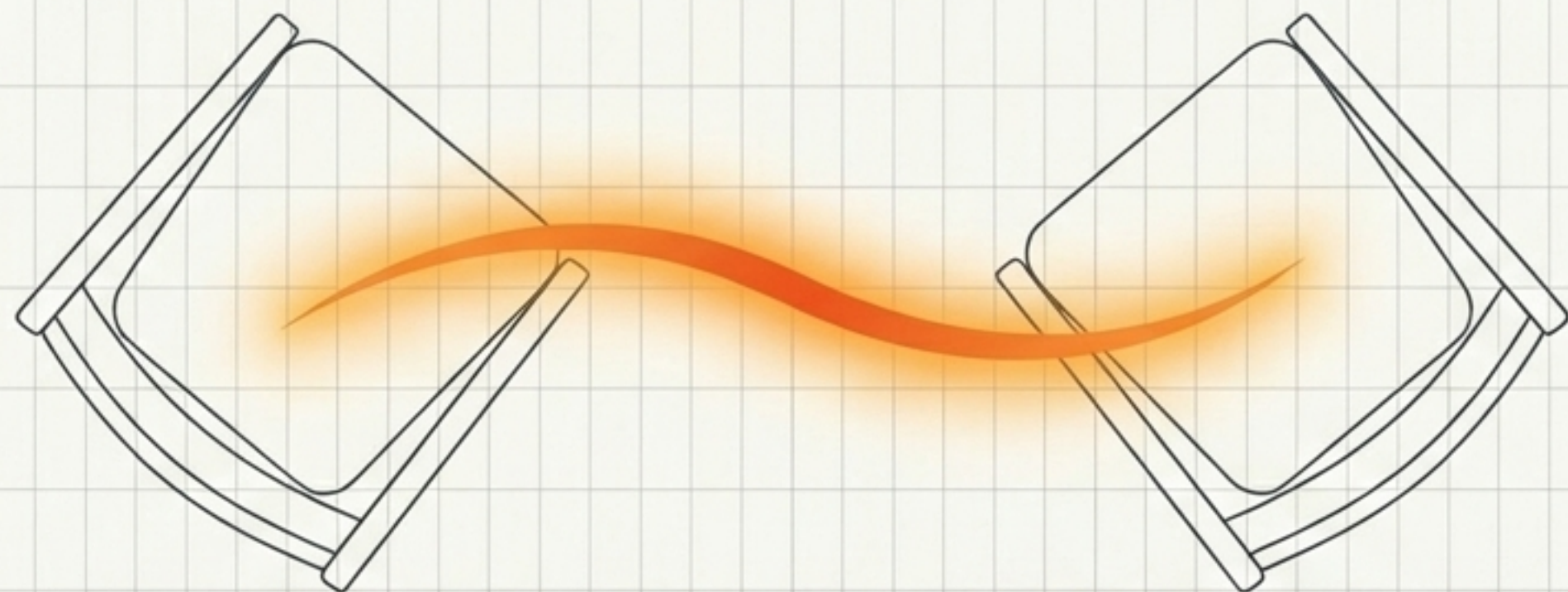
コミュニケーション能力の再定義

コミュニケーション能力とは、
面白いことを話す能力ではない。

相手が関わりやすい状態を、
先に作れる**空間設計力**である。

椅子に座る一瞬。

その一瞬で、もう勝負は始まっている。



明日、あなたはどこから座りますか？